

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 09年12月

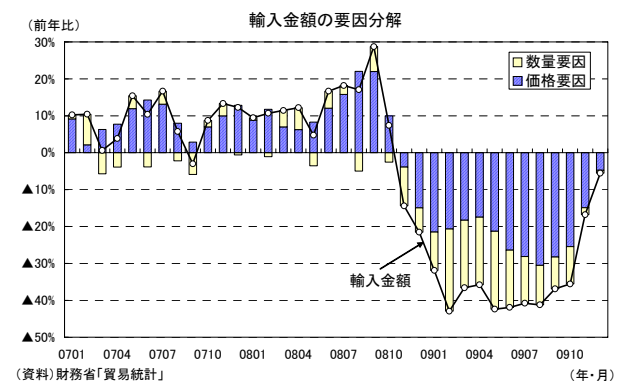
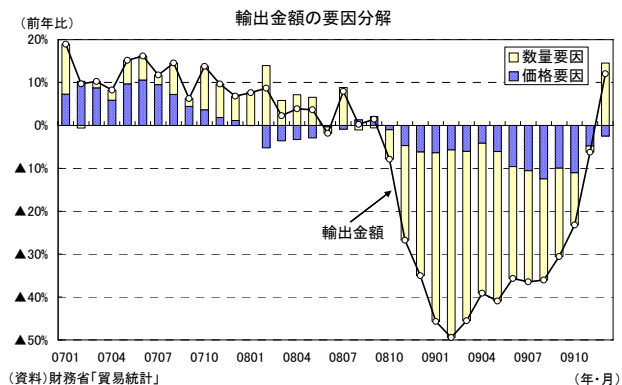
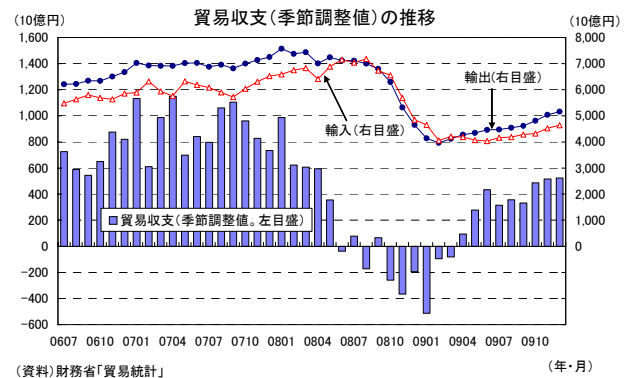
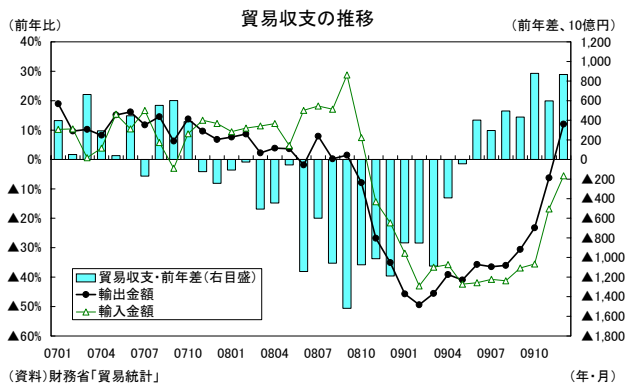
～10-12月期も外需が成長率を大きく押し上げ

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出が1年3ヵ月ぶりに増加

財務省が1月27日に公表した貿易統計によると、09年12月の貿易収支は5,453億円の黒字となり、ほぼ事前の市場予想（ロイター事前予想：5,900億円、当社予想は4,977億円）通りの結果となった。輸入が前年比▲5.5%（11月：同▲16.8%）と14ヵ月連続で減少する一方、輸出が前年比12.1%（11月：同▲6.3%）と08年9月以来1年3ヵ月ぶりの増加となり、貿易収支は7ヵ月連続で前年を上回った。季節調整済の貿易収支は5,228億円と9ヵ月連続の黒字となり、黒字幅は前月の5,168億円から若干拡大した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比14.7%（11月：同▲1.5%）、輸出価格が前年比▲2.3%（11月：同▲4.8%）であった。輸出数量は08年7月以来1年5ヵ月ぶりの

上昇となった。

輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲0.8%（11月：同▲2.0%）、輸入価格が前年比▲4.8%（11月：同▲15.0%）であった。

2. アジア向け輸出が急増

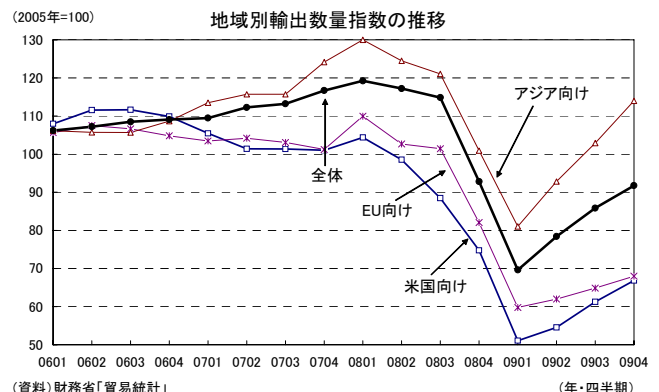
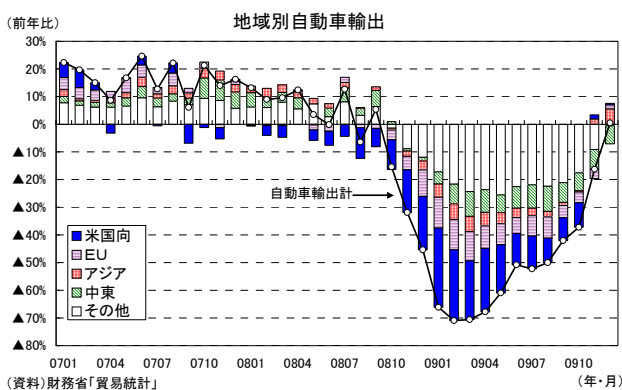
自動車輸出は前年比0.5%となり、08年9月以来1年3ヵ月ぶりに増加に転じた（11月は同▲16.2%）。中東向け（11月：前年比▲36.9%→12月：同▲31.1%）、ロシア向け（11月：前年比▲83.9%→12月：同▲63.0%）は依然大幅な減少が続いているが、EU向け（11月：前年比▲29.7%→12月：同14.0%）が1年5ヵ月ぶりに増加に転じたことに加え、米国向け（11月：前年比5.1%→12月：同1.7%）、アジア向け（11月：前年比20.4%→12月：同61.7%）が2ヵ月連続で増加した。アジア向けの中では、特に中国向けの急増（前年比121.7%）が目立っている。

12月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲2.4%（11月：同▲6.2%）、EU向けが前年比▲1.5%（11月：同▲18.5%）と下落幅が縮小し、11月に1年2ヵ月ぶりに上昇に転じたアジア向けは前年比33.0%（11月：同11.9%）と伸びが急加速した。

10-12月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比9.1%（7-9月期：同12.4%）、EU向けが前期比4.8%（7-9月期：同4.6%）、アジア向けが前期比10.8%（7-9月期：同10.9%）、全体では前期比6.9%（7-9月期：同9.5%）となった。アジア向けは4-6月期以降、3四半期連続で前期比二桁の高い伸びとなっており、米国向けも7-9月期の二桁の伸びからは若干減速したものの引き続き高い伸びを維持している。一方、EU向けは下げ止まっているものの、欧州経済の停滞を背景に回復ペースは緩やかなものにとどまっている。

なお、地域別の輸出数量指数（季節調整値）の直近のボトムからの上昇率はアジア向けが約50%、米国向けが約40%、EU向けが約20%となっている。また、足もとの水準を前回のピーク時（08年初め頃）と比べると、アジア向けが9割弱まで回復しているのに対し、米国向け、EU向けは6割程度にとどまっている。

輸入数量指数（季節調整値）は7-9月期に前期比5.6%と5四半期ぶりに増加した後、10-12月期は同2.6%となった。伸び率は低下したものの、国内生産の回復などを背景とした輸入の増加基調は維持されている。



3. 10-12 月期の外需寄与度は前期比 0.6%程度のプラスに

12 月までの貿易統計と 11 月までの国際収支統計の結果を踏まえて、10-12 月期の実質 GDP ベースの輸出入を試算すると、輸出は前期比 5%程度のプラスとなり、3 四半期連続の増加が見込まれる。一方、輸入は前期比 1%程度と 2 四半期連続の増加となるものの、7-9 月期の同 3.3%から伸びは低下し、輸出の伸びを大きく下回ることになろう。この結果、10-12 月期の外需寄与度は前期比 0.6%程度(年率 2%強)となることが予想される。外需は 4-6 月期が前期比・寄与度 1.4%、7-9 月期が同 0.4%と成長率の押し上げ要因となってきたが、10-12 月期も引き続き景気の牽引役となった模様だ。

当研究所では 1/29 に発表される鉱工業生産、家計調査等の結果を受けて、同日の weekly エコノミストレターで 10-12 月期の実質 GDP 成長率の予測を公表する予定だが、現時点では前期比年率 4%程度の高成長を見込んでいる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。